令和元年度　事務事業総点検シート（1）
［ 平成30年度事務事業 ］

一般会計		事務事業分類	A　一般事務事業
事務事業名	国際機関との連携事業	シート番号	08-65
担当部署名	文化観光 局 博物館 部 学芸 課	評価責任者（課長名）	増田

簡易点検

≪Ⅰ．基本情報≫

	No.	項目				後期実施計画の位置付け
基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	6	まちの魅力向上と、賑わいと交流のまちづくりを進めます	
			施策	5	国際交流・国際協力の推進と多文化共生のまちづくり	無
	2	事業開始年度	平成　23　年度		終了（予定）年度	年度
	3	根拠法令等（法令、条例、規則、要綱等）	特になし			
	4	関連計画	特になし			
	5	事業実施の経緯	平成23年10月、堺市博物館内にユネスコが賛助するアジア太平洋無形文化遺産研究センターが国立文化財機構の1組織として開設された。 平成24年度からはセンターと連携し、市民向け事業を実施している。			

≪Ⅱ．事業概要≫

	No.	項目	内容
事業概要	6	事業の実施主体（誰が実施しているのか。）	□ 本庁　□ 各区　■ 出先機関　（堺市博物館）　□ 市外郭団体 □ 地域団体・市民　□ 民間企業・NPO　□ その他　（　　）
	7	事業の対象（誰を、何を対象としているのか）	市民、博物館入館者、無形文化遺産に関心のある方
	8	事業の目的（どのような状況にしたいのか）	アジア太平洋無形文化遺産研究センターとの連携事業を通じ、多文化共生へのまちづくりに資するとともに、歴史的につながりの深いアジアをはじめとする国々との文化交流を促進し、地域の活性化に繋げていく。
	9	事業内容（スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど）	アジア太平洋無形文化遺産研究センターや国立民族学博物館などの研究機関と連携し、無形文化遺産理解セミナー（年3回）、企画展示、ワークショップなどを実施する他、ユネスコ、日本の無形文化遺産に関する取組みや本市の事業を紹介するパネル、リーフレットの作成を行う。 また、節目のタイミングをとらえ、文化庁等とも連携し、国際シンポジウムや音楽舞台公演を行う。 ■ 直接実施　□ 指定管理　■ 委託　□ 補助金　□ 負担金　□ その他　（　　）
	10	直接実施以外の主な支出先	セミナーやシンポジウム開催に係る業務を一部委託している。

≪Ⅲ．投入量≫

	No.		項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算
事業コスト	11		事業費（a）	千円	6,126	3,900	3,789	3,901
		主な事業費内訳	無形文化遺産シンポジウム、セミナー等	千円	4,394	2,910	2,750	2,441
			無形文化遺産に関する展示	千円	311	703	906	850
			消耗品等	千円	478	287	133	610
			その他（お茶室での展示等）	千円	943	0	0	0
		財源内訳	国・府支出金	千円				
			受益者負担金(使用料、手数料等）	千円				
			市債	千円				
			その他（　　）	千円				
			一般財源	千円	6,126	3,900	3,789	3,901
	12		人件費（b）	千円	4,930	4,980	4,980	4,940
	13		総コスト(c)=(a)+(b)	千円	11,056	8,880	8,769	8,841

令和元年度　事務事業総点検シート（2）

事務事業名	国際機関との連携事業	シート番号	08-65

≪Ⅳ．評価（測定・分析）≫

ロジックモデルの考え方

活動（アクティビティ）：問題に対処するための具体的活動 → 因果関係 → 活動結果（アウトプット）：活動が実施されたことを示す事実 → 因果関係 → 成果（アウトカム）：期待される変化 → 目的の達成に寄与

〔14〕平成30年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

〔15〕または〔16〕に定量的な指標、または定性的な目標を記載

【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動内容や成果

活動実績と成果

14 平成30年度実績

ユネスコに記載されている国内外の無形文化遺産を取り上げて定期的にセミナーを開催することにより、ユネスコの無形文化遺産保護条約、そして世界の文化的多様性の重要性をより多くの方に理解していただくことに寄与している。
国立文化財機構との共催で実施する東京シンポジウムを通じて、本市の豊かな歴史文化とそれを生かした本市独自の取り組みを首都圏から発信することができ、また、文化庁、国立文化財機構や有形・無形の研究者との連携を図ることができた。

15

指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
無形文化遺産理解セミナーの参加者数	人	目標値	300	300	300	300
		実績値	290	356	286	
		達成率	97%	119%	95%	
		評価	普通	良い	普通	
算出方法・設定根拠など	参加者実数					

16

指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
東京シンポジウムの参加者数	人	目標値	300	250	250	250
		実績値	230	190	302	
		達成率	77%	76%	121%	
		評価	少し悪い	少し悪い	大変良い	
算出方法・設定根拠など	参加者実数					

業績の分析

17 目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析（その他、関連情報に基づいた分析）

セミナーのテーマ設定において、人々の関心が高い健康(Health)の無形文化遺産を取り上げて実施したため、多くの方に関心を持っていただくことができた。また、文楽のセミナーにおいても題材を国立文楽劇場の次回公演の演目を取り上げたことが良かった。

【分析のチェックポイント】
- ○ 事業の達成度はどうでしたか。
- ○ 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- ○ 資源投入は適切でしたか。
- ○ 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- ○ 事業の有効性は高いですか。低いですか。